

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版） | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ローズライフ京都	階数	地上6F
建設地	京都府京都市中京区壬生東高田町	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	171 人
気候区分	地域区分 I	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年10月 予定	評価の実施日	2013年7月24日
敷地面積	2,538 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,125 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,067 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

■建設 ■修繕・更新・解体 □通用 ○オンサイト □オフサイト

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

#### LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 介護居室の快適性に配慮しつつ、屋上緑化や太陽光パネルの設置の等、環境負荷低減に配慮し、相互にバランスの取れた建築計画とした。	<b>その他</b> 地区計画による高さ制限を満たし、歩道の確保や景観への配慮の等、京都市街という高密度地区に配慮した建築計画とした。	
<b>Q1 室内環境</b> 主な用途である介護居室の居住環境に配慮し、設計を行った。	<b>Q2 サービス性能</b> 介護居室の広さを十分に確保し、設備の信頼性の高い建築計画とした。また、快適性を保ち易いよう、清掃性に配慮した建築計画とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内に十分な緑化面積を確保し、また、道路境界沿いには歩道を整備した計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電パネルの設置や高効率機器の採用等、エネルギー負荷低い建築計画とした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 省水型機器の採用やリサイクル品目の使用など、省資源に配慮した建築計画とした。	<b>LR3 敷地外環境</b> 地表面対策や、ゴミ置き場の設置などに配慮し、敷地外環境負荷を低減した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される